

『「種を蒔く人」 ～ 「表面的な happy」 vs 「内から湧き出る joy」 ～』

筆者は、新渡戸稲造(1862-1933)から学んだ河井道(1877-1953)が、1929年創設した恵泉女学園の9代目理事長を拝命することになった。2023年1月6日 恵泉女学園の新年礼拝に出席した。挨拶で【女子教育に大いなる理解を示した新渡戸稲造が援護した河井道は、まさに、『種を蒔く人になりなさい』の実践であろう。人間は自分では「希望のない状況」であると思ったとしても、『人生の方からは期待されている存在』であると実感する深い学びの時が与えられている。現代は、『表面的な happy』vs『内から湧き出る joy』の違いの考察の時、新渡戸稲造の行動は、以下の4項目に集約されるのではなかろうか!】と語った。

(1) 賢明な寛容さ (*the wise patience*)

(2) 行動より大切な静思 (*contemplation beyond action*)

(3) 紛争や勝利より大切な理念 (*vision beyond conflict and success*)

(4) 実例と実行 (*example and own action*)

新渡戸稲造は『平和のための砦の前哨基地』（国際連盟）で、東西文化の融和を図るところに世界の平和、人類の幸福があると訴え、その実現のために奔走した。今回の廣瀬薫学園長のメッセージは『平和の共同体として歩む』であった。

また、【河井道の『わたしのランタン』の終わりに『ここまで、わたしは、私のランタンをかかげてきた。時がくると、それは別の手へとひき継がれて、さらに先へと運ばれていくであろう。私たちの魂の「太陽」が、この世界の面から、うれいと闇の跡をひとひらも残さず追いはらうまで、このランタンが、芯を切りととのえられ、燃え続けていくように、わたしはそれのみを願っている』と記述されている。河井道なら、『コロナ時代の教育』を下記の如く語るのではないのでしょうか!】とも、さりげなく語った。

① 自分の力が人の役に立つと思う時は進んでやれ

② 人の欠点を指摘する要はない、人のあやまちは語るには足らぬ

③ 理由があっても腹を立てぬこそ非凡の人

④ 感謝は優しき声に表れる

⑤ 心がけにより逆境も順境とされる

『河井道の教育理念の実践の場＝恵泉女学園』の時代的出番ではなかろうか！